

# 保護者との関係の中で求められる幼稚園教諭の社会的スキル

齊 藤 由 里

## 問題と目的

幼稚園教諭の仕事は、子どもたちの登園前早くから始まり、子どもたちの安全や健康に気を配りながら活動する。そのため、身体的な負担だけでなく精神的な負担も多い。西坂 (2002) によると、幼稚園教諭の精神的健康には、「仕事の多さと時間の欠如」や「園内の人間関係の問題」が影響していることが明らかとなっている。「仕事の多さと時間の欠如」に関しては、勤務形態などが改善されることによって解決に結び付くと考えられる。一方、「園内の人間関係の問題」は、個々の職員の意識・態度が関係し、簡単に解決する問題とはいえない。そもそも幼稚園教諭になりたいと志望する学生の大半が“子どもが好きだから”という理由で幼稚園教諭を職業として選択している傾向がある。しかし、幼稚園教諭は子どもと関わるだけでなく、同僚・保護者・地域の人々など大人との付き合いも多い。星野・横山・金子・横山・水野・徳田 (2001) の調査によると、大小にかかわらず保護者とのトラブルは半数以上の教諭・保育者が経験しており、特に、保護者との関わりに苦手意識をもつ教諭が多いと考えられる。実際、役職のある幼稚園教諭は、子育て支援の現場におけるカウンセリング学習に関心を示しており、子ども・保護者・職員間の関わりにおける問題意識が高いことが示されている (井上・石川・会沢、2007)。

カウンセリング技法に限らず、対人関係を円滑にすすめていくためには総合的なコミュニケーション能力が求められる。それには社会的スキルを身につけることが有効な手段の一つであると考えられる。社会的スキルとは、対人場面において適切かつ効果的に反応するために用いられる言語的・非言語的な対人行動と、そのような対人行動の発現を可能にする認知過程との両方を包含する概念である (相川、1996)。社会的スキルが不足している人は、社会的不適応に陥ったり、心理的・精神医学的問題を抱えたりするリスクが高いことが多くの研究によって実証されている (相川、2000)。本来、社会的スキルは日常生活における対人関係を通して次第に学習されていくものである。しかし、少子化・核家族化・地域社会の希薄化などにより、日常生活で学ぶ機会そのものが激

減している。更に、近年、若者は間接的なメディア世界に閉じこもりがちになり、現実の人間関係が希薄になってきたという指摘がある (山近・谷口・大坊、2002)。そこで社会的スキルを意図的・計画的に学習していく必要が考えられ、教育や訓練が多く開発されてきた。その多くが子どもの健全な社会性を育成するために行われる予防的・発達の取り組みで、児童や生徒を中心に行われている。しかし、社会的スキル教育や訓練の対象であった子どもたちも大人になり、教諭として子どもたちに対峙している年代に突入してきている。大学生は初対面の人や親しくない人との会話、友人の友人や顔見知り程度の相手などとのコミュニケーションに苦手意識を抱いている (後藤・大坊、2002)。社会に出て働き出しても、これらの顔見知り程度の相手は変わらず苦手であると考えられる。特に、若い教諭にとっては大抵の保護者が自分より年上で、子育ての先輩にあたり、苦手な相手であると推測される。

そこで、幼稚園教諭、特に若い経験の少ない教諭には、子どもだけでなく保護者への接し方を勉強するとともに、社会的スキルを身につけ、様々な保護者に対応できる力を持たせることが必要だと考える。ただ、スキル教育を現場の教諭へ普及していくためには、ねらいを明確にし、苦手分野の克服につながるような教育・訓練内容を提供しなければならない。そこで、現役の幼稚園教諭がどのようなニーズを持っているのか、子どもへのスキル教育と合わせて調査することを目的とする。

## 方法

**対象者** 私立幼稚園教諭 14 名 (性別：男性 1 名、女性 13 名、年齢：24-55 歳、勤続年数：3-35 年) から回答を得た。

**手続き** 2010 年 10 月に、1 つの幼稚園の教諭を対象に実施した。調査にあたり、「子どもの社会性の育成と社会的スキル教育」について簡単な説明を提示し、その後、調査への協力を求めた。

## 調査内容

(1) **子どもたちへの教育** 調査用紙に「幼稚園で社会的スキル教育を実施するとします。その際、どんな社会的

スキルをとりあげたいと思いますか。取り上げたいと思うものの番号に、いくつでもいいですから○をしてください。その他にもあれば、具体的にお書きください。」という教示文に続き、13のスキル（中台・金山・斉藤・新見、2003）を列記した。また、「その他」用の自由記述欄を設けた。

（2）教諭への教育 調査用紙に「先生方が社会的スキル教育を受けるとしたら、どんなことを学びたいですか？特に、保護者との関係の中で学びたいと思うものの番号に、いくつでもいいので○をしてください。その他にもあれば、自由に書いてください。」という教示文に続き、6のスキル（相川・藤田、2005を参考に作成）を列記した。また、「その他」用の自由記述欄を設けた。

## 結果と考察

### 子どもたちへの教育で取り上げたいスキル

表1には各項目の選択人数、割合（選択人数／回答者数）、順位を示した。①「上手に挨拶をする」、⑩「自分の意見や考えをはっきりと伝える」が同率1位であった。続いて③「上手に相手の話を聞く」、⑤「遊びなどの仲間に入れてもらう」が3位であった。集団行動や仲間関係、コミュニケーションの基本である挨拶が上位になる

のは、基本的な生活習慣やコミュニケーション能力の基礎を築く幼児期には求められるスキルと考えられる。また、自分の意見を伝えたり、話を聞く、仲間に入れてもらうなどは、幼児の活動の中心である遊びをスムーズに行うためには必要な基礎スキルと考えられた。

反対に、順位の低いものとしては、④「上手に質問する」、⑩「自分にとって嫌なことや出来ないことを上手に断る」が挙げられていた。これらのスキルは、スキル教育の中でも年長（小学校高学年以降）の子どもたちに実践することが多いものである。幼児を対象に教育・訓練するには、その他の基礎的なスキルを体得してからという順序性を教諭が理解していると考えられる。

その他の自由記述では、「“上手に”や“はっきり”と出来なくても、そうしたい、そうしようと思う気持ちを持てるようになれば」や「各場面で必要な言葉のやりとり。知らずにすぎている子がいるので、まずは体験させたい。」や「積極的にやろうとする姿を身につける」などの意見が述べられていた。高度なスキルも幼児期に全く不必要であるわけではなく、体験させることが重要であると考えていることが推測できる。本来、日常生活の中で徐々に身につけていくスキルであるが故に、このような意見が出たと考えられる。

表1. 子どもたちへの社会的スキル教育で取り上げたいスキル

	項目	人数	割合	順位
①	上手に挨拶をする	14	100%	1
②	上手に自己紹介をする	7	50%	11
③	上手に相手の話を聞く	13	93%	3
④	上手に質問する	3	21%	13
⑤	遊びなどの仲間に入れてもらう	13	93%	3
⑥	遊びなどの仲間に誘う	12	86%	5
⑦	励まし、慰めなどのあたたかい言葉をかける	10	71%	7
⑧	相手の気持ちを考えて接する	12	86%	5
⑨	自分のしてほしいことなどを上手に頼む	8	57%	9
⑩	自分にとって嫌なことや出来ないことを上手に断る	5	36%	12
⑪	自分の意見や考えをはっきりと伝える	14	100%	1
⑫	誤解や意見の食い違いなどのトラブルを上手に解決する	8	57%	9
⑬	イライラしたり、ドキドキしたりした気持ちをコントロールする	9	64%	8

## 教諭への教育で取り上げたいスキル

表2には各項目の選択人数、割合（選択人数／回答者数）、順位を示した。②「表情やしぐさで相手の思っていることがわかる」、⑤「相手の立場を考えて行動する」、⑥「表情を豊かにする」が同率1位であった。②は個人が相手の意思を受け取るために行うdecoding（解読）で、⑥は個人が相手に自らの意思を伝えるために行うencoding（記号化）であり、どちらもコミュニケーション過程の1つと考えられる。更に、“表情”という非言語的情報を利用しており、言葉だけでなく言葉に付属される情報の操作が重要と考えているようだ。⑤は、対人場面で関係を維持していくために実際に必要なスキルと考えられる。今回の教示では“保護者との関係の中で”としているため、保護者が子どもをどのように見ているのか、どのような思いを抱いているのか、といった相手の気持ちに配慮することが求められている。対人場面ではとても高度なスキルであるが重要なものである。保護者との対話が必要とされる場面には、懇談や面談などで園での様子を伝えるという仕事がある。子どもは家庭内で見せる行動・態度とは異なる様相を園では見せることがしばしばある。保護者が見ている・考えている子ども像と大きく異なる場合、保護者はそれを受け入れられな

いこともあるのではないか。そのような時にこそ、相手の立場を考えて行動するスキルが求められる。単に園での様子を保護者に伝えれば終わり、というのではなく、表現を柔らかくしたり、保護者の動揺をくみ取った対応、協力体制を見せることも必要だと考える。

その他の自由記述では、「我慢することも大切」や「自分の思いを上手く伝える」や「子どもの姿など色々な話がしやすいような雰囲気身を身につける」といった意見も出た。相手の様子を見ながらも、教諭として伝えなければいけないことはタイミングをはかって上手く伝えることも求められている。そして、“雰囲気身を身につける”といった経験や人柄が表れるようなことも必要とされている。

そのような高度なスキルが現場では求められているという結果をもとに、今後は適したスキル教育・訓練のプログラムの開発に取り組みたいと考える。

本調査は、回答者数の少なさ、1ヶ所の園での実施という点で、幼稚園全体の意見とは言い難い。しかし、今後も更にデータを追加し、多くの園に共通するものが見いだせれば、幼稚園現場に社会的スキル教育を導入していく際の貴重な資料となると確信する。

表2. 教諭自身への社会的スキル教育で取り上げてほしいスキル

	項目	人数	割合	順位
①	相手とすぐに、うちとけられる	9	64%	4
②	表情やしぐさで相手の思っていることがわかる	10	71%	1
③	自分が不愉快な思いをさせられたときには、はっきりと苦情を言える	3	21%	5
④	気持ちが顔にでないようにする	3	21%	5
⑤	相手の立場を考えて行動する	10	71%	1
⑥	表情を豊かにする	10	71%	1

## 引用文献

- 相川 充（1996）. 社会的スキルという概念 相川 充・津村 俊充（編） 社会的スキルと対人関係：自己表現を援助する pp.3-21. 誠信書房
- 相川 充（2000）. 人づきあいの技術—社会的スキルの心理学—サイエンス社
- 相川 充・藤田正美（2005）. 成人用ソーシャルスキル自己評価尺度の構成 東京学芸大学紀要1 部門、56、87-93.
- 後藤 学・大坊郁夫（2003）. 大学生はどんな対人場面を苦手とし、得意とするのか？—コミュニケーション場面に関する自由記述と社会的スキルとの関連— 対人社会心理学研究、3、57-63.
- 星野ハナ・横山範子・金子さつき・横山さやか・水野智美・徳

- 田克己（2001）. 「困る保護者」とその対応に関する幼保比較 日本保育学会大会研究論文集、54、834-835.
- 井上清子・石川洋子・会沢信彦（2007）. 子育て支援とカウンセリング（3）—埼玉県内の幼稚園教諭を対象とした調査から— 文教大学教育学部紀要、41、63-71.
- 中台佐喜子・金山元春・齊藤由里・新見直子（2003）. 小、中学校教諭と中学生に対する社会的スキル教育のニーズ調査 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部、52、267-271.
- 西坂小百合（2002）. 幼稚園教諭の精神的健康に及ぼすストレス、ハーディネス、保育者効力感の影響 教育心理学研究、50、283-290.
- 山近良裕・谷口淳一・大坊郁夫（2002）. 携帯メディアを介したコミュニケーションが孤独感に与える影響（1） 日本社会心理学会第43回大会発表論文集、834-835.